

地震学最先端を知るシンポジウム 京都市京都テルサで開催

2022年2月27日 18:00



地震学者などが地震学や災害の最先端について語るシンポジウムが27日、京都市内でおこなわれました。このシンポジウムは京都の災害時連携NPO等ネットワークが開催したもので、会場となった京都市南区の京都テルサの参加者とオンラインの参加者合わせておよそ60人が熱心に視聴しました。はじめに京都大学地震予知研究センターの橋本学教授が地震の規模や発生する時期、地震の予兆を予測することは依然、難しい。しかし阪神淡路大震災の前、世間は静岡などの東海地震に注目し、関西には地震が来ないという神話が流布された。同じ轍を踏んではいけないと訴えました。このあと消防署員や電気工事関係者、地域の自主防災会専門協力員など、様々な立場の人が災害に関する活動を報告しました。

京都テルサ(南区)

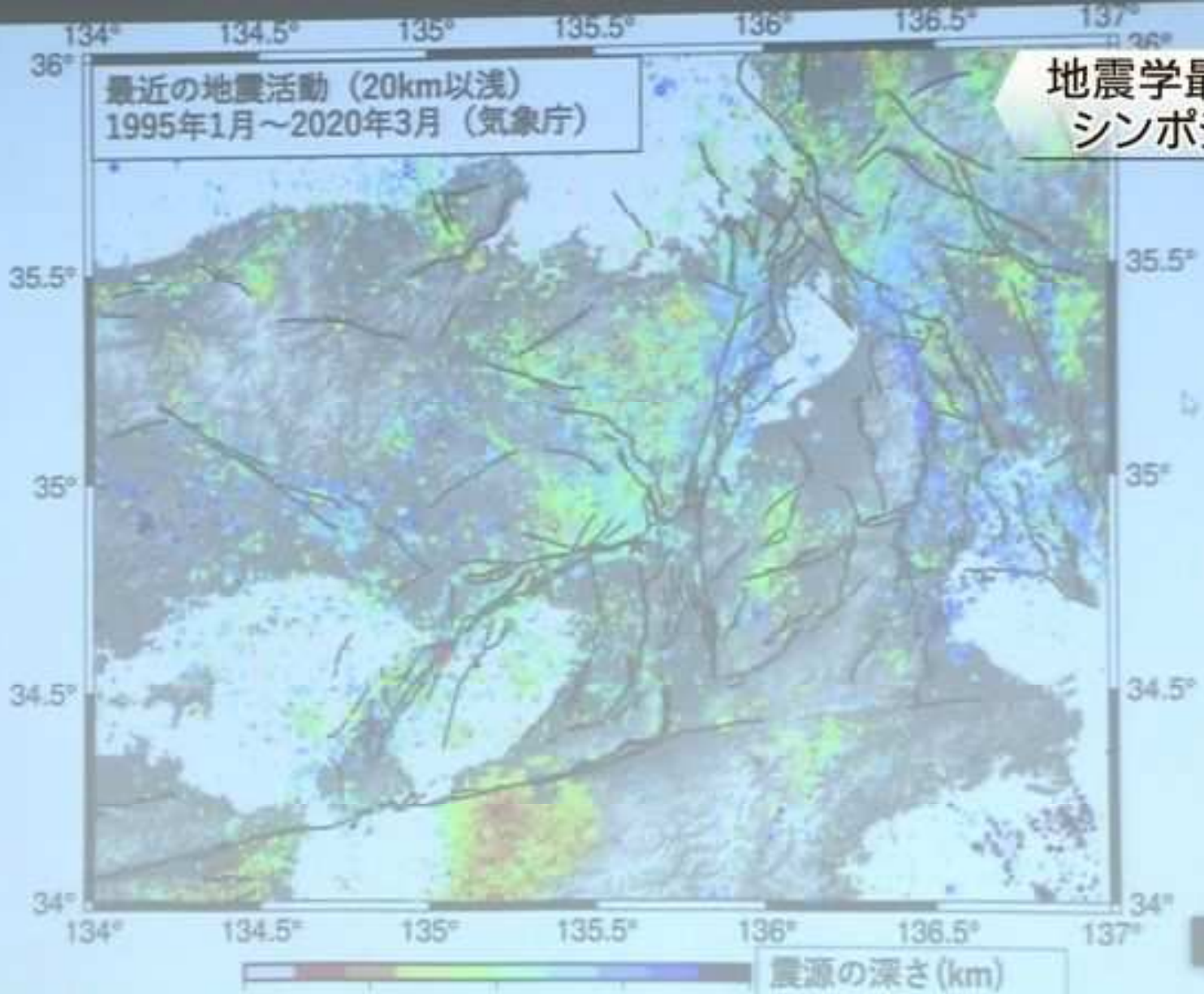
地震学最先端
シンポジウム





最近の地震活動 (20km以浅)
1995年1月~2020年3月 (気象庁)

地震学最先端
シンポジウム





2021年10月16日21時48分京都府南部の地震



京都大学 橋本学教授

地震の規模、時期、予兆の予測は難しい



京都大学 橋本 学教授

地震の規模、時期、予兆の予測は難しい